

日立建機株式会社

南部アフリカでの事業展開（1960年代中期～）

アフリカにおける日立建機の事業展開は1960年代半ば、南アフリカに代理店を設置した事から始まる。

南アフリカを拠点に南部アフリカ諸国（ナミビア、ボツワナ、ジンバブエ、モザンビーク、ザンビア、その他）を主に一般建機、鉱山用機械の販売、サービス、部品供給を展開、1998年には南ア代理店を買収合併し、日立建機南部アフリカ（HCSA）を設立、2010年には南部アフリカの統括会社として主にマイニング市場を開拓するために日立建機アフリカ社（HCAF）を新設した。従来HCSAが1社でカバーしていたエリア区分を分割、新たに日立建機ザンビア社（HCMZ）と日立建機モザンビーク社（HCMQ）を開設した。

ほぼ同時期に設立し事業展開を行っているHCAF, HCMZ, HCMQの3社であるが、今回は2010年10月に会社設立、2012年6月からその事業の中核である鉱山機械の部品コンポーネント再生事業（REMAN）を行っているHCMZを紹介したい。

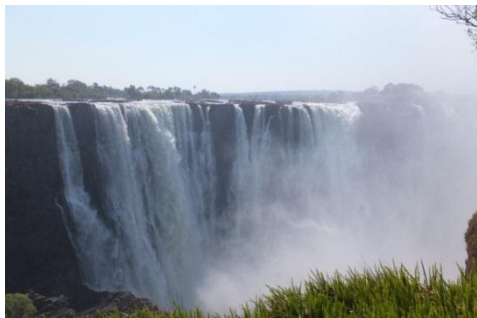
1. ザンビア概要

日立建機ザンビア社（HCMZ）が本社、REMAN工場を構えるのはザンビア共和国の首都ルサカである。

ザンビアは、7か国（コンゴ民主共和国、アンゴラ、ナミビア、ジンバブエ、モザンビーク、マラウイ、タンザニア）に接したアフリカ南部の内陸国で面積は日本の約2倍、人口約1300万人、その1割強が首都ルサカに暮らしている。

ザンビアは世界的な銅の産出国でその生産量は全世界で10指に入る規模。1964年に英国から独立後国有化されていた企業や銅鉱山が1992年の民営化法施行により外国資本が流入、民営化の促進と近年の銅の国際価格上昇と相まって経済の安定化とザンビアの堅実な発展を支えている。

余談①：ザンビア南西に位置しジンバブエ国境のザンベジ川には世界三大瀑布の一つ「ビクトリアフォールズ」があり、この地方は野生動物の宝庫でもあることからビクトリアフォールズへの観光はお勧めです。



余談②：ザンビアの独立は1964年10月24日。日本ではちょうど東京オリンピックが開催されていた時期でした。開会式ではまだ北ローデシアの旗を。そして24日の閉会式では独立国として初めてザンビア国旗を掲げ行進したとのことです。来年は建国50周年、また日本とは国交樹立50周年の大きな筋目の年になります。

2. 日立建機ザンビア社について

1) 会社概要

設立：2010年10月

再生工場（REMAN工場）：操業開始：2012年6月

従業員数：130名



2) 事業概要

ザンビア北西部カッパーベルト州銅鉱山で稼働する日立建機製超大型鉱山機械（油圧ショベル、ダンプトラック）のサポートを行うキトウェ支店、ルムワナ銅鉱山サポート担当ルムワナプロジェクト、その両部門をサポートするルサカ本社/REMAN工場が日立建機ザンビア社における現地支援組織である。



3) REMAN 工場概要

キトゥエ支店、ルムワナプロジェクトは、顧客支援を直接行うサービス支店機能を有し、REMAN 工場の使命は支店機能として重要で要の一つである定期交換部品（再生部品）及び突発事故対応用再生コンポーネントの迅速な供給にあるが、鉱山用超大型油圧ショベル、ダンプトラックの油圧機器、電気機器の部品再生を 2012 年 6 月よりスタート、日立建機ザンビアの主要顧客が活動するカッパーベルト州の大手銅鉱山に支店、プロジェクト経由再生部品供給を開始した。

本 REMAN 工場の機能はザンビアのみならず南部アフリカ諸国のサポートも大きな設立目的の一つであるが、2013 年 8 月から日立建機モザンビーク社への再生部品供給も開始した。



4) 今後の展開

① 南部アフリカへの再生部品供給

上記で述べたように、ザンビアのみならず南部アフリカ周辺国への再生部品供給の拡大。

② 中小型建設機械販売

中小型建設機械のザンビアにおける営業活動の開始。ザンビアは毎年約 7% 以上の実質成長を遂げておりそれに伴うインフラ投資が今後さらに活発になる事が想定される。建機需要もそれに伴い増加するであろうがその需要の取り込み。

③ 人財育成

現在も不足している建機修理技術者の確保と当社社員の更なる能力アップのためにザンビア国内の職業専門学校等、技術教育専門機関との連携により、継続的に優秀な人員の育成に取り組む計画であり、JICA が来年度後半にザンビア北部州職業訓練専門学校に派遣予定のシニアボランティア（建設機械修理、メンテナンス技術専門指導員）赴任を契機に日立建機ザンビアとしての産学連携教育を JICA と連携しスタートさせたい。

日立建機ザンビア社

社長 田河拓治